

さいたま市立大宮北中学校

学校だより 9月号



令和8年8月28日(金)

048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談室)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

『人間性豊かな
実践力のある生徒』

- ◆たしかな学力
- ◆ゆたかな心情
- ◆たくましい身体

被災地に思いを寄せ、自分にできることを考える

校長 廣江 剛

夏休み中の7月28日、熊本県で最大震度7を観測する大きな地震が発生しました。多くの方々が被災し、今も避難生活を余儀なくされています。家屋の損壊や道路、鉄道などの被害に加え、一部地域ではライフラインの復旧にも時間を要しています。また、連日35℃を超える厳しい暑さが続き、避難所や車中で不自由な生活を送る方々の苦労は計り知れません。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

こうした災害は、決して遠い地域だけの出来事ではありません。埼玉県でも大規模地震が発生する可能性があります。私たちも避難所で生活する立場になるかもしれないのです。そのような有事の際、私は大宮北中の生徒たちには、「避難所のお客様」ではなく、「地域を支える一員」であってほしいと願っています。避難所は、行政が用意してくれるサービスを受ける場所ではありません。地域の人たちが力を合わせて運営していく場所です。受付をしたり、物資を運んだり、小さな子どもや高齢の方に声をかけたり、清掃をしたり。中学生にも担える役割はたくさんあります。むしろ、体力があり、素直に行動できる中学生の力は、地域にとって大きな支えになるはずです。

本校では、10月17日(土)体育館で避難所設置訓練を実施する予定です。地域の皆様と一緒に避難所の設営や運営を体験する実践的な訓練であり、今年は、北中生の自主的な参加を募ります。参加した生徒には、地域貢献活動に取り組んだ証としてボランティア活動証明書を発行する予定です。もちろん、証明書をもらうことが目的ではありません。大切なのは、「自分に何ができるか」を考え、行動できる人になることです。いざというときに、「大宮北中の生徒がいてくれて助かった」と地域の方々から言っていただけるような、そんな中学生に育ってほしいと願っています。多くの北中生の積極的な参加を期待しています。

さて、防災とは別の話題になりますが、この夏休みに私が特に印象深く感じた出来事を紹介します。それは、科学部の佐藤日向さんと顧問の新藤先生が参加した「青少年のための科学の祭典2026全国大会」を見学したことです。2日間に渡り東京の科学技術館で開催された大会には、科学を愛する多くの小・中・高校生が集まり、会場は大変な熱気に包まれていました。御案内の通り、佐藤さんは、さいたま市内の調整池に生息する絶滅危惧2類の昆虫「ミゾナシミズムシ」について研究を続け、昨年、全日本科学振興委員会賞を受賞しました。さらに今年5月には、オンラインジャーナル「水生動物」にて、さいたま市内の調整池で「チャイロチビゲンゴロウ」を発見・採集した成果を発表しました。県内で初めての確認であり、東京湾から30km以上離れた場所で見つかった国内最内陸記録でもあることから、新聞でも取り上げられました。

大会当日、佐藤さんはステージ発表で自身の研究内容を来場者の年齢や知識に合わせて分かりやすく紹介していました。また、特設ブースではタガメやゲンゴロウなどを展示し、多くの子どもたちや保護者が足を止めていました。次々と寄せられる質問に、よどみなく丁寧に答えるその姿を見て、自分の興味や関心をとことん追究できる人は本当にすごいなと感じました。そして、これこそ自ら学びを追究する青少年の理想的な姿なのだと強く感じました。佐藤さんは本校の文化祭でも研究成果を発表してくれる予定です。北中生の皆さんにとって、自分の好きなことを突き詰めることの素晴らしさを感じる機会になることと思います。私自身も今から大変楽しみにしています。